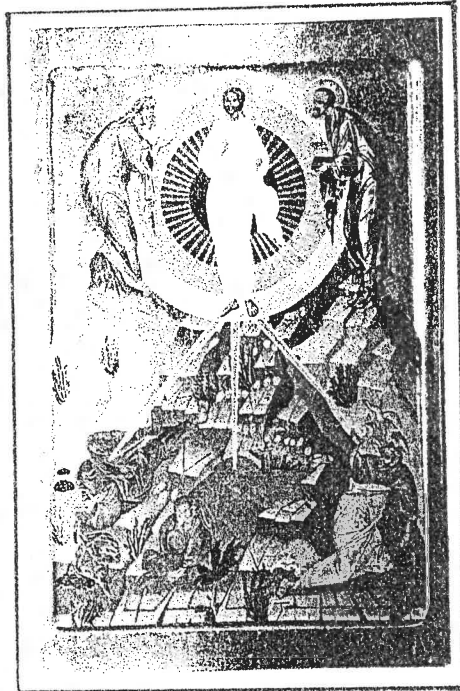


カルメル霊性センター（月刊）

2000（平成12）7月号

# 2000. 7. 霊性センターニュース 146号



霊性センターカルメル

断想（150）

ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』（24）

主イエス — そのイメージ —

みことばのひびき

フォコラーレニュースより

諸所の企画についてのご紹介

新刊紹介

詩

お願い

〒611 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
宇治聖テレジア修道院（黙想）  
TEL 0774-32-7016  
FAX 0774-32-7457



## 霊性センターカルメル

### 1. 聖書深読黙想会

(1)上野毛聖テレジア修道院（黙想）(2000年黙想会年間スケジュールのページを  
ごらんください)。

(2)宇治聖テレジア修道院（黙想）（2000年黙想会年間スケジュールのページを  
ごらんください)。

(3)名古屋（比野教会）

連絡：小林 厚 〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115

(4)大分聖テレジア修道院（黙想）

連絡：冨田恵子 〒870-1125 大分市上宗方1803-3 TEL.0975-41-4012

(5) a. 通信聖書深読

朝日カルチャーセンター（東京新宿）が通信講座のなかに『聖書深読』を  
組み入れてくださることになりました。ご希望の方は下記にご連絡ください。

連絡：北野真弓 〒163-0201東京都新宿区住友ビル私書箱22

TEL. 03-3344-2527

\*「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎）。オリエンズ宗教研究所出版。

定価 1000円。下記に直接ご注文下さい。3冊以上注文されれば 20 %引。

オリエンズ宗教研究所

FAX. 03-3325-5322

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEJ. 03-3322-7601

b. 聖書深読（通信） \*有光信子 連絡TEL. FAX. 0798-67-8132

7/9. 年間14主日 マルコ 6.1-6

9/10. 年間23主日 マルコ 7.31-37

10/8 年間第27主日 マルコ 10.2-16

11/12 年間第32主日 マルコ 12.38-44

### 2. 聖書と念祷の集い

指導 星野神父

日 時：7/8（土）、7/15（土）3：30～ \*急に変更にな

ることもあります。その時は各自念祷をして御帰りください。

霊性センターニュース8月号は、お休みです。

# 2000年 カルメル修道会東京・上野毛聖テレジア修道院（黙想）

## § 黙想会年間スケジュール §

### 1. 信徒と奉献生活者のための個人指導黙想会

スタッフ 星野正道師、福田正範師（以上カルメル会）

Sr. 中川享子（ケベックカリタス会）、他

(1) 6月 1日（木）4時から10日（土）朝食

(2) 10月20日（金）4時から29日（日）朝食

全期間参加の方優先ですが二泊からの部分参加も可能。

詳しくは申込用紙を御請求ください。

### 2. 奉献生活者のための黙想会

(1) 7月24日（月）4時から8月2日（水）朝食 福田正範師

(2) 8月11日（金）4時から20日（日）朝食 山田裕於師

(3) 12月26日（火）4時から翌年1月4日（木）朝食 福田正範師

### 3. 聖書深読黙想会：次の各土曜の夕食から日曜の16時30分まで

(1) 4月15日から16日 奥村一郎師（了）

(2) 7月 1日から 2日 ”

(3) 9月30日から10月1日 ”

(4) ~~11月25日から26日~~ ”

9月 2日から 3日

(5) 12月16日から17日 星野正道師

2001年

(6) 1月27日から28日 奥村一郎師

(7) 3月31日から 4月1日 星野正道師

### 4. ウェンズデイ・リトリート

スタッフ：星野正道師

「キリスト教再確認」（音楽瞑想、講話、分かち合い、ミサ、etc.）

(1) 5月17日（水）10時から16時

(2) 6月14日（水） ”

(3) 7月 5日（水） ”

(4) 10月11日（水） ”

(5) 11月 1日（水） ”

5. ウィークエンド・リトリート 新井延和師（カルメル会）

（最初の日の夕食をすませてから集合。どなたでも参加できます。）

- (1) 4月28日（金）20時から30日（日）15時 「復活」
- (2) 10月13日（金） “ 15日（日） “ 「アビラの聖テレジア」

6. 特別企画黙想会：いづれも通い可

- (1) 5月 9日（火）夕食から11日（木）昼食 アロイジオ師
- (2) 12月 1日（金）夕食から 3日（日）昼食 チプリアノ師
- (3) 2001年1月16日（火）夕食から18日（木）昼食 奥村一郎師

7. 大祭日のミサにあずかるために：チェックイン 午後3時から

（講話なし） チェックアウト午前10時まで

- (1) 復活祭 4月22日（土）夕食なし～23日（日）朝食
- (2) クリスマス12月24日（日）夕食なし～25日（月）朝食

以上、1. から7. までの申込はカルメル会上野毛聖テレジア修道院へ。

皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355 お急ぎの場合 03-3704-2171

FAX. 03-3704-1764

8. 青年黙想会（35歳までの男女） スタッフ：カルメル会士

- (1) 5月13日（土）16時から14日（日）16時

希望者には5月12日（金）20時から始まるプログラムもあります。

その場合は最初の日の夕食をすませてから集合してください。

- (2) 11月 3日（祭・金）12時、昼食から 5日（日）16時

青年黙想会のお問い合わせ、申込はハガキかFAX で下記まで。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25カルメル会

青年黙想会担当神学生 FAX. 03-3704-1764

# 2000年 大聖年 黙想会 案内



## 聖書深読黙想会

1月15日(土)6:00PM ~ 16日(日)午後	奥村一郎神父担当
2月 5日(土)6:00PM ~ 6日(日)午後	中川博道神父担当
4月15日(土)6:00PM ~ 16日(日)午後	中川博道神父担当
5月27日(土)6:00PM ~ 28日(日)午後	新井延和神父担当
7月 8日(土)6:00PM ~ 9日(日)午後	奥村一郎神父担当
12月16日(土)6:00PM ~ 17日(日)午後	新井延和神父担当

## 男子青年のための黙想(高校生以上~35歳まで)

6月 3日(土)5:00PM ~ 4日(日)4:00PM	カルメル会士担当
11月25日(土)5:00PM ~ 26日(日)4:00PM	

## 女子青年のための黙想(高校生以上 ~ 35歳まで) 中川博道神父・カルメル宣教修道女会

2月20日(日)一日黙想 10:00AM~4:00PM
5月20日(土)5:00PM ~ 21日(日)4:00PM
11月18日(土)5:00PM ~ 19日(日)4:00PM

## 一般のための黙想

・週末黙想	1月29日(土)5:00PM ~ 30日(日)4:00PM	中川博道神父
	5月13日(土)5:00PM ~ 14日(日)4:00PM	奥村一郎神父 (但し男性のみ)
	6月17日(土)5:00PM ~ 18日(日)4:00PM	北村善朗神父

・日曜一日黙想	10:00AM~4:00PM	中川博道神父
	4月9日(テーマ)『復活』	
	11月5日(テーマ)『日常生活の中の三位一体』	

・幼いイエスの聖テレジア黙想		伊従信子氏(ノートルダム・ド・ヴィ)
(テーマ)『大聖年の恵みを生きる』	テレーズと共に「愛に生きる」	
	9月30日(土)4:00PM ~ 10月1日(日)3:00PM	

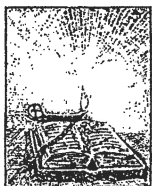
・2泊3日の黙想		伊従信子氏(ノートルダム・ド・ヴィ)
(テーマ)『大聖年の恵みを生きる』	テレーズと共に(慈しみの愛に身をささげた記念日に)	
	6月9日(金)PM4:00~11日(日)PM4:00	

・グレゴリオ聖歌黙想会		花井哲郎氏・中川博道神父
	12月1日(金)4:00PM~12月3日(日)4:00PM	(合唱経験者対象)

・木曜 黙想会	10:00AM ~ 4:00PM	
	1月20日	一年の靈的歩みのプログラム 中川博道神父
	2月17日	四旬節 中川博道神父
	3月16日	聖ヨゼフの月 新井延和神父
	4月20日	復活 中川博道神父
	5月18日	聖母マリア 新井延和神父
	6月15日	イエスの聖心 アロイジオ神父
	7月13日	カルメル山の聖母マリア 新井延和神父
	10月26日	祈り:アピラの聖テレサをとうして 中川博道神父
	11月16日	待降節・死 新井延和神父
	12月12日(火曜日) クリスマス	北村善朗神父

## 奉獻生活者の黙想

7月24日(月)5:00PM ~ 8月2日(水)朝食	中川博道神父
8月 5日(土)5:00PM ~ 8月14日(月)朝食	金子尚志神父(フランシスコ会修練長)
12月27日(水)5:00PM ~ 1月5日(金)朝食	チブリアーノ神父



## 宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 宇治市木幡御蔵山39-12  
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

最寄の駅: JR奈良線 木幡駅 or 六地藏駅 / 京阪宇治線 木幡駅 or 六地藏駅

# T. T. クラブ

## ～10代・20代の 青年たちの集い～

カルメル会で10代・20代の青年たちの集い『T. T. クラブ』を行っています。このクラブの特徴は、福音や、現代の話題を使って、祈り、お互いの話を聞く、自分の意見を話す、また伝わってくるものを感じ取る、自分の感性を表現するといふことを中心に置きます。その中で、お互いの神様から頂いた“宝”を発見し、よりよく人々と共に生きていく可能性をさがしていただきたいと思います。

ぜひ、参加してみてください。わたしどもスタッフは心からお待ちしております。

- 第36回 3月25日(土) 「歌謡曲で祈る パートI」
- 第37回 4月1日(土) 「新聞で祈る」
- 第38回 4月15日(土) 「主の祈り」
- 第39回 5月6日(土) 「政治」
- 第40回 5月27日(土) 「安息日一忙しさからの解放」

- 第41回 6月10日(土) 「こんびゅーたー」
- ~~第42回 6月24日(土) 「洗者ヨハネから学ぶ」~~
- 第43回 7月1日(土) 「バンクエット」
- 第44回 9月9日(土) 「歌謡曲で祈る パートII」

\*時間 いずれもP.M.7:00からP.M.9:00まで  
 \*対象 10代・20代の青年たち  
 \*スタッフ カルメル会士  
 \*場所 カトリック上野毛教会 信徒会館 1F  
 \*プログラム

7:00~7:15 はじめの集い みんなで讃美歌を歌うetc.  
 7:15~7:30 テーマの解説  
 7:30~8:00 祈りの時間 (沈黙の祈り) 聖堂や会館で  
 8:00~ 祈ったこととの分かち合い

9:00 解散  
 ○ カトリック教会のカテキズム  
 ○ ともに祈る時

カルメル修道会  
 T. T. クラブ 係

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25  
 電話 03(3704)2171

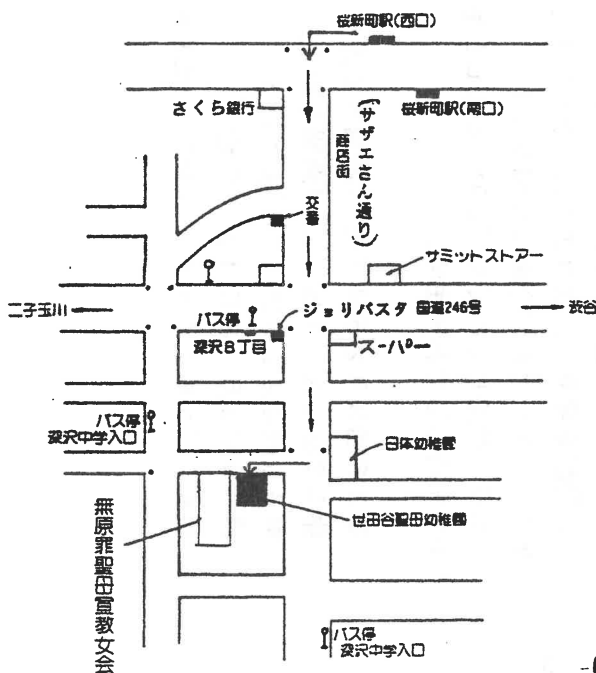


# 修道生活、司祭生活を考える若者の集い

NO. 16

この修道生活、司祭生活を考える若者の集いも皆さんのご協力で小さなあゆみをつづけております。この集いは特定の修道会へのおさそいの集まりではありません。教会生活を送って行く中で今までとはちがう生き方もあるのではないか、と思っている若者がひとりぼっちでひざをかかえているのはよくない、同じように感じている仲間と出会い、ともに祈りながらあゆんで行けたら何かが見えてくるのではないか、ということで始まりました。もし君がそんなひとりだったらぜひ来てみませんか。

- \*日時 9月10日(日) 10時から16時まで、昼食は各自お持ちください。
- \*対象 30才くらいまでの独身男女青年
- \*スタッフ カルメル会司祭 星野正道
- \*費用 1000円
- \*内容 主日ミサ、講話、質問コーナー、個人面談等
- \*持って来るもの 聖書、ロザリオ、筆記用具、昼食等
- \*連絡先 158-0093 世田谷区上野毛2の14の25 男子カルメル修道会  
星野正道神父 TEL 03-3704-2171 申し込みの必要はありません。
- \*会場 無原罪聖母宣教女会修道院 158-0081 世田谷区深沢8の13の16  
東急田園都市線桜新町駅下車 TEL 03-3701-3295



## 〈地下鉄〉

☞ 渋谷駅より  
田園都市線(二子玉川方面)  
桜新町駅下車 徒歩12分

## 〈バス〉

☞ 渋谷駅より 南口  
18番のりば(新道経由)  
二子玉川駅行 } いずれも  
高津営業所行 } 深沢8丁目下車  
徒歩3分

☞ 東横線都立大学駅より  
成城学園前駅行 深沢中学入口下車  
徒歩1分

☞ 目黒駅より 深沢中学入口下車  
弦巻営業所行 徒歩1分

無原罪聖母宣教女会  
〒158-0081  
東京都世田谷区深沢8-13-16  
☎ 03-3701-3295



# 2000年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場 所 カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

日 程

ご指導

- ・ 6月15日（木）夕食 ～ 6月18日（日）昼食 チプリアノ神父様 了
- ・ 8月24日（木）夕食 ～ 8月27日（日）昼食 アロジオ神父様
- ・ 9月14日（木）夕食 ～ 9月17日（日）昼食 星野 正道神父様
- ・ 10月 2日（月）夕食 ～ 10月 5日（木）昼食 チプリアノ神父様
- ・ 11月16日（木）夕食 ～ 11月19日（日）昼食 福田 正範神父様

☆空きがある場合には、一般の方も参加できます。おたずねください。

☆お申込み、お問合わせは下記まで

TEL & FAX 03-3892-1378 (阿部昌子)



## 黙 想

薄暗い道を歩いた。けさはうらぶれた猫が睨っていた道だ。薄ぼんやりと外燈がともってもいただろうか。忘れてしまった。風が吹いていた。僕は一人だった。だが友だちよ、空の賢治、死んだ父よ、僕はもう一人でないな。ざわざわとする黒い樹影を辿っても、愛する子供たちもいるからな。こんな詩を見たら笑うだろう。これからどうなるか分からない。荒んだ世界、争闘の歴史はまだまだつづく。だが友だちよ、空の賢治、死んだ父よ、僕はもう一人でないな。



# 断想 (150)

宇宙の子守唄 (9)

そんなにしゃべらんと...

— 神 の 存 在 —

奥村 一郎

ヨーロッパでの十年近い勉強を終えて帰国し、東京の上野毛修道院にいたころのこと。当時、「公教要理」とっていた、カトリック入門講座をもつように命じられ、信者、未信者、老若男女、約二十人あまりが集まるクラスで、ミニ神学のような勉強を受けもったことがあった。そのころの「公教要理」も、現在の「カトリック要理」も、まず、「神の存在」について話しが始まり、哲学的な存在論、次に道徳的、心理学的理論が手短かに説明されている。存在とか運動の因果論、目的論など、日本人の苦手な抽象論がいきなりでくる。そのような、難解な理論の元を正せば、前にも何回かふれた、中世カトリック神学の祖といわれるトーマス・アクイーナス (1225-1274) の大著「神学大全」に由来する。そのころのローマの神学院での授業は、明けても暮れても、トーマス一点張り。とくに、神の存在についての「五つの道」といわれる証明は高く評価されてきた。それによれば、誰でも、神の存在を認めざるをえないまでに完璧な理論であった。それを習ってきたばかりのかけだし神父の私は、得意げに、長々とその講義を繰り広げた。ところで、話し終わって部屋をでようとした、その時、戸口に立っていたひとりの男子高校生が話しかけてきた。「神父さん、なんでそんなに喋らんと、神は存在せんのですか？」まさに、ぎゃふん！一瞬、頭のなかが真っ白になった。しばらくして、その時のことを思い返してみた。すると、夢中になっておもちゃと遊んでいる子供の姿が思い浮かんできた。いきなり、その子供にむかって、「お前のおもちゃはなにか？それに答えなさい。答えられないようでは、お前はその玩具と遊ぶ資格はない。」といて、その子供から玩具を奪い取ってしまう私をそこにみた。神について喋りまくる。しかし、神と遊ぶことを知らない私。神の定義を知らない子供は夢中に神とあそぶ。確かに、イエスが言われたように、真の神の知識は、学者ではなく、幼子に現わされることを痛いほど身にしみて覚えた。(マタ 11, 25-26, ルカ 10, 21) その後、その青年はどうなったのか知らない。まるで、私にその一言を伝えるためにだけ、神から遣わされた無名の天使だったのかもしれない。

それこそ、宇宙の子守唄どころか、ひび割れる太陽の巨大なビッグ、バーンのようであった。神に栄光！、人々に感謝！

## ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(24)

### 時が癒すとは

「時が癒す」と、人はよく言います。それが、私たちに加えられた傷を何とか忘れ、何もなかったかのように生き続けることを意味するならば、本当ではないでしょう。それは、本当の癒しではありません。それは、単に現実を無視することにすぎません。

けれども「時が癒す」という表現が次のことを意味するならば、すなわち難しい人間関係にありながら、私たちが誠実であることによって、互いに傷つけあつた事実のより深い理解へと導かれるならば、そこには多くの真実があるでしょう。「時が癒す」ということは、受動的に待つことなく、能動的に自分の痛みと関わり、赦しと和解の可能性を信頼することにあるのです。

(0707)

### まず自分自身の傷を手当てすること

孤独や落胆や恐れといった私たちの否定的な体験は、他の人々への贈物（賜物）となりうるのです。とりわけ私たちがあたたかな手当てを受けた時に・・・傷口が開き、血が流れ出ている間は、他の人々はギョツとして近づきません。けれども誰かが注意深く私たちの傷を手当てしてくれたならば、その傷はもはや私たちや他の人々を驚かすことはありません。

私たちが、傷を癒してくれる他者の現存を体験するならば、また私たち自身のいやしの賜物（贈物）を発見するならば、その時、私たちは、私たちの傷によって、傷ついた兄弟姉妹との深い連帯へと入ることができるのです。

(0709)

九里 彰訳

## 主イエス - そのイメージ -

私たち一人ひとりの人生における回心という神との和解のできごとは、旧約のエジプトからの脱出に、そして新約の主の復活の信仰に重なる意味を持っています。神との親しいコミュニケーションに生きる新しい人になっていくからです。そんな人にとって、主イエスはどんな方なのでしょう。

『アメイジング・グレイス』という世界中で愛され歌われ、主イエスの「素晴らしい恵み」を賛美し感謝する歌の作詩者ジョン・ニュートン(1725～1807)にとって、回心と信仰と慰めの恵みの与え「主」でした。かつて奴隷貿易船の船長として数多くの航海から回心して独学で聖公会司祭となったニュートンは、讚美歌の詩を数多く書きましたが、この歌(作曲者不明)のように自らの体験にもとづいて作りました。この歌は詩とメロディの美しさだけでなく、こうした回心の体験が土台になっていることや、クラシックやポピュラーのたくさんの歌手が歌っているのですが、さらに、彼によって運ばれたであろう奴隷の子孫にあたる人たちが、この歌の由来を知らずに、自分らの歌、黒人霊歌として日常的に歌い継いでいることの不思議さにも心を打たれるからです。この歌の最後に美しい一節があります。「真に信じる者の耳に、ああ、イエスの御名が何と心地よく響く / 悲しみをやわらげ、痛手をいやし、涙をぬぐってください」。

ところで、イエスに冠される「主」という言葉のイメージには、私を支配君臨する「主人」という封建的な堅い考えからのものや、単に重苦しくなるような荘厳な神性の意味に結びつけて感じられるものがあるでしょうが、そうではなく、苦しみを受けたにもかかわらず、復活して天に上げられたイエスはありとあらゆる人への絶え間ない慈しみに満ちた愛に結ばれているといったイメージのほうが私たち一人ひとりの人間性と信仰を豊かなものにしてくれます。つまり、イエスこそ「希望、喜び、情熱、信仰、慈しみ、恵み、柔和、温和」の主(ぬし)、「私たちの心に無上の喜びと強さと愛と平和」をもたらしてください「与え主」なのです。正教会の中世の威厳に満ちた「全能者」キリストのイコンを眺めていた未信者の青年が直観的に、「はじめ少しこわい感じだったけど、悲痛に裏打ちされた大きな優しさを感じてからは、すごい頼れる感じがする」と言っていたことを思い出します。

イエスのこうしたイメージが、まず主イエスを「知る」、全身全霊で「愛する」、そして主イエスの生き方と感じ方と考え方とに「忠実に従う」へとうながしてくれます。「我が主、イエス・キリスト、あなたに感謝します。あなたのくださったすべての恵みに感謝します。あなたの分け与えてくださったすべての苦しみと蔑(さげす)みに感謝します。ああ、限りなく慈しみ深い贖い主、我が友、我が兄弟よ、あなたのことをもつとよく知り、もつ

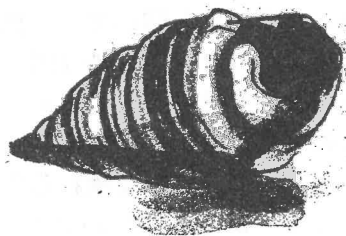
と親しく愛し、もっと近くに從って行くことができますように」(英国チチェスターの司教聖リチャード(1197～1253)の祈り)。

聖書の中でイエスはこれらのほかにキリスト(メシア)、救済者、神の御子などさまざまな名(タイトル)で呼ばれていますが、それらと結びつく、ひとりよがりではない、教会の信仰と伝統に根ざしたしっかりしたイメージは、このイエスとの親密なコミュニケーションの中で私たち一人ひとりの心と考えと感情と行動に大きな影響力を、どんな時にも持っています。このことは、旧約の詩編の中で神のみ顔の光や輝きが救いと癒しと祝福に関わっていることに見られ、そこから私たちのイエスのみ顔や姿、そのイメージにまでつながって、同じことが溢れ出ているのです。

たとえ夫婦喧嘩をしても、ミサから帰った奥さんが家の中を朗らかにしてくれる、そんなことの中で感化されて洗礼準備をしていたある男性は、突然の不治の病に倒れ、苦闘の最期の床で、「イエス・キリストが私の主であり、愛であることがよく分かりました」と、まだ幼い子供たちの前で司祭におだやかに告げました。

あなたはイエスを何と呼び、どんなイメージを持っているのでしょうか。

(橋本吉則・カルメル修道会)



## 年間第13主日

「この方の服にでも触れればいやしていただける」女は触れ、…… いやされた。

(マタイ5：21～43)

カナダ人教師のモニカは、夏休みにインドのスラムに行き、マザー・テレサのもとでボランティアをしました。死を待つ人の家での仕事の一つは重病の人の体を洗うことでした。モニカは汚れ、ただれ、鼻を虫にかじられた女性のそばに在るのに耐えられませんでした。

ある日、モニカは体中ただれている女性の体を洗って欲しくないかと頼まれました。思ってみるだけでぞっとしました。そのとき、「貧しい人の体に触れるとき、愛するイエスに触れるかのように触れなさい」というマザー・テレサの言葉を思い出しました。その瞬間モニカはその女性を信仰の目で見、困難なく洗ってあげることが出来ました。実際とても大切に扱ったのです。

今日の福音に出てくる女性をいやしたのもこのような子供のような信仰でした。イエスは病氣と死を司る師です。女性は12年間病氣で苦しみ、主の服に触り、いやされました。主は彼女のほうに向きます。彼女をよくしたのは迷信でなく、主を信じる信仰でした。

福音書には主が行った多くの奇跡の一部しか載っていません。奇跡は主が神の子であり、待望の救い主であり、人間の苦しみを理解し、共感する方であることを証明するために書かれています。これらすべてを知って、世界は過去19世紀間に大きく変わったのでしょうか。今日何百万人も名みのキリスト者がキリストとその福音を無視していることでしょうか。彼らはあまりにも実際的で、地上のことにこだわり、永遠の救いという「くだらないこと」に無駄使いする時間はないのです！どれだけたくさんのキリスト者が、今日の福音に現れる女性のような信仰と謙遜と確信を持たず、靈的に病み、死にかけていることでしょうか。彼女は山なすこの世の誇り、利害、しがらみを打ち破り、主の服に触りました。私たちは時々、あまりにも自我中心的であり、怖くて自分の殻から出ないのです。

イエスは「誰が私の服に触ったのか」と仰います。彼に近づこうと群集が押し迫っているのですから、弟子たちが言うように奇妙な問いに思えます。しかしイエスは自分が信仰ゆえにいやされる接触を見分けることが出来ると示すことを望んだのです。女は震えながら、自分のしたことを打ち明け、すでに起こったとわかっているよい結果を告げました。イエスのみ手に一度触れるだけで多くの医者が12年間の長きにわたりなしえなかったことがなされたのです。

私たちすべてのキリスト者に必要なものは、生き生きとした信仰の恵みであり、これは洗礼の時与えられています。しかし実践しないため、私たちはそれを失いつつあります。私たちはこの世の仕事と楽しみに忙しすぎて、主の使信に耳を傾けるひまがありません。とても悲しいことです。主との交わりを通して信仰を深めましょう。また内なるいやしを経験し、イエスがいやし主であるとの喜ばしい結果を述べ伝えましょう。信仰は賜物や与え主によるのではなく、イエスとの個人的経験の頂点において信仰が触れられるとき成長します。

(Beatrice)

## 年間第14主日

## 「わたしは弱いときにこそ強い」

## (Ⅱコリント12：10)

復活の主に出会ったパウロは、また第三の天にまで引き上げられるという大きな恵みをも受けました。さらにパウロには使徒として誰よりもよく働き、誰よりも多く苦しんだという自負がありました。このため思い上がらないように体に一つのとげが与えられました。このとげが何であるかについては、眼の病気、慢性の頭痛、癩癩、マラリヤ熱などの諸説があります。いずれにしろ、パウロが使徒職の遂行に妨げとなると考えていた何らかの慢性的疾患だったと想像できます。パウロは主にこのとげを取り去ってくれるように三回願ったのですが、主は「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分発揮されるのだ」と答えます。それでパウロは自分の弱さを誇り、私は弱いときにこそ強いというのです。

パウロが弱さを誇るのには、キリストの力が彼のうちに宿るためです。彼は弱さ、侮辱、窮乏、迫害、行き詰まりの状態にあっても、キリストのゆえに満足していることが出来ます。主の恵みが自分を満たすということを知っているからです。

山上の垂訓の始めに「心の貧しい人は幸いである」(マタイ5：3)とあります。これは誤解を招きやすい訳であり、志賀直哉は「暗夜行路」の中で主人公に「心の貧しいものが幸いであるなどという宗教は信用できない」と語らせています。原文は「霊において貧しい人は幸いである」となっています。つまり、神以外頼れるものがない人は幸いであるという意味なのです。弱さ、貧しさは神の憐れみを招きます。だから貧しい人は幸いといえるのですが、これが一般論として言われてもそれほど心に響くものではありません。主はまさに「心の貧しい人」を特別に愛されました。徴税人や罪びとの友(マタイ11：19)とからかわれるほど、社会からつまはじきされている人をかえりみられました。罪深い女の罪をゆるし(ルカ7：48)、徴税人を弟子とし(マタイ9：9)、姦淫の現場で捕らえられた女を赦し(ヨハネ8：11)、レプトン銅貨二枚を入れた貧しいやもめを誉めます(ルカ21：3)。

パウロは自分もまたこの「心貧しい人」の一員であるとみなしていたことでしょう。肉のとげゆえに主に頼るほかないからです。そして主は心からご自分に頼るものの願いを退けることはなさいません。私たちが誠実でなくても、キリストは常に真実でいらっしやいます。キリストはご自分を否むことが出来ないからです(Ⅱテモテ2：13)。

(新井)

## 年間第15主日

「私たちは皆、特に奉仕の生活によって福音を伝えるように招かれている」

(マルコ6:7~13)

マルコ福音書において、イエスは弟子たちを二人ずつ、福音をのべ伝え、病人をいやすために何も余分なものを持たせずに送り出しています。イエスは弟子たちが必需品を持たず、すべてのことについて神を信頼するよう意図されたのです。キリストの弟子は徹底的な単純さと完全な信頼、そして絶えず与え、要求はしない寛大さを持っているべきでした。

使徒が神の国にいるのは、大使が任地国にいるのと同じです。両者とも遣わされており、遣わしたものの代表者であり、このことが彼らの尊厳、力、偉大さであり、また仕事なのです。彼らがもたらす力は彼らが受けた使命です。伝達者は自分自身の権威で行動しません。自分がそのために遣わされたことをしなければなりません。使命の中に彼らの個性は失われます。自分自身を忘れなければなりません。彼らは遣わした者の手の中にある道具に過ぎません。自分の使命と遣わした者に対する忠実さが彼らの徳です。イエスが言葉と業によって神の国の賜物を示し、有効なものにします。

ある日、日曜学校の生徒が先生に尋ねました。「なぜキリストはある特定の場所にやってきて、世界中にいい知らせを伝えないうま33歳で死ななければならなかったのですか。キリストは神の子なのだから、人間の助けがなくても平和と愛の福音と永遠の救いの知らせを全世界に広めることが出来たはずですよ。各国の上空にその国の言葉で福音書を書くことも出来たはずですよ。」先生は、「キリストに出来ないことはありませんでした。しかし、主はより弱い方がより人間的な方法を選び、世界にいい知らせを伝えるために自分の仲間を送りました。この選択から弱い人間性を神が愛し、理解していることがわかります。主のこのやり方は他のどんな超自然的手段よりもずっとよく、かつ効果的であったのです。」

福者ダミアン神父はモロカイ島のライ病患者の奉仕に関わったとき、感染する危険を冒しました。彼はライ病患者の看護をし、家を建ててあげ、相談に乗り、棺を作ってやりました。12年間全面的に奉仕したころ、ある日曜日の朝、祭壇にライ病患者のためのいつものミサをささげるために立ちました。説教で、いつも「親愛な兄弟の皆さん」と始めるところを彼はゆっくりと「私たちライ病患者は」と言いました。これはついにすべての点で彼らと苦悩を共にするものとなったことを知らせる彼らしいやり方だったのです。

ダミアン神父は危険を冒してライ病患者と共に働きました。自分の勇気を証明する必要と言うより、人生を賭ける勇気でした。ダミアン神父のようにイエスに倣って貧しい人々、病気の人々の世界に入った宣教師はたくさんいます。ダミアン神父は社会から見捨てられ、排除された人々への深い愛と関心を成長させました。愛なく奉仕することは出来ますが、奉仕することなく愛することは出来ません。私たちキリスト者は会社、事務所、学校などでいっしょに働く人々、周りにいる人々に対していわばどこでも宣教師です。生活を通して、福音をのべ伝えることの出来るあかしをする必要があります。

(Beatrice)



年間第16主日

## キリストは敵意という隔ての壁を取り壊した

(エフェソ2:14)

今日の第二朗読はエフェソ書の中心的な部分で、キリストがユダヤ人と異邦人の間にあった隔ての壁を取り除いたことを述べます。このことは現代人の我々には至極当然のことを言っているかのように聞こえ、改めて言う必要もないと感じるかもしれませんが、救いの歴史はまず御父とユダヤ人の契約から始まったことを思い起こすとその重大さがわかります。

主御自身、12弟子を派遣するとき「異邦人の道に行ってはならない。またサマリア人の町に入ってはならない。むしろイスラエルの家の失われた羊のところへ行きなさい。」(マタイ10:5, 6)と仰いました。主がサマリアの女を温かく導いたことから見て(ヨハネ4:1~26)、サマリア人や異邦人を排斥するお気持ちが多かったことは明らかですが、御父が契約を結んだ民ユダヤ人を優先するのは神の御独り子として当然でした。主が弟子たちにサマリアに行くように明言したのは復活の後のことであり、「あなたがたの上に聖霊が下ると、あなたがたは力を受ける。そしてエルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また地の果てに至るまで、私の証人となる。」(使徒行録1:8)と仰っています。サマリア人はモーセ5書を持ち、同じ神を信じているのに、ユダヤ人と敵対していました。宗教的にも地理的にも最も近いサマリア人との壁が取り壊されるのと、地の果てまで福音が述べ伝えられることが同時に語られているのはとても示唆的です。

あるキリスト者の哲学者が、「他者の壁を打ち破るのには、天地創造と同じだけのエネルギーがいる」と言っています。ユダヤ人とサマリア人という隣人同士の壁が打ち破られるためには御独り子の受肉・死・復活・聖霊降臨と言う天地創造に匹敵する重大事が起きなければなりません。これを思うとこの哲学者の言葉もそうひどい誇張でないような気がします。そして、隣り合ったユダヤ人とサマリア人の壁が取り除かれるのと、ユダヤ人とすべての異邦人の壁が取り除かれるのとは本質的に同じことなのです。

ある特定の隣人との間に乗り越えがたい壁がある人もいると思います。この壁は神が望むとき必ず破れます。主が天地創造に匹敵するエネルギーを使ってくださったからです。そして主に協力して隔ての壁を取り除くとき、実は地の果てに至るまで隔ての壁が取り除かれるのです。私たちは神の子の自由をいただくこととなります。主が切り開いてくださった地平を歩むからです。

(新井)

## 年間第17主日

「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」

(ヨハネ6：1～15)

ある少女が、マハトマ・ガンディーのような重要人物が上半身裸で歩いているのを見て当惑してしまいました。ある日少女は彼に近づき、たずねました。「なぜシャツを着ていらっしやらないのですか。もしよろしければ、父に願ってシャツを一枚差し上げます。」

ガンディーは彼女を優しく抱き、「もしシャツを下さったら、私のような格好で歩き回っている私の兄弟たちが驚き、文句を言い始めるでしょう。」と説明しました。

「皆さんに差し上げますわ。」少女は言い張りました。「ご兄弟は何人ですか」

「4億人です」とマハトマは答えました。

この会話から、少女はマハトマの必要に気づき、マハトマはインドの貧しい兄弟たちの必要に気づいていたことがわかります。日々の生活において、わたしたちの援助、愛、やさしい言葉、共感のまなざしを必要としている人々と接触しますが、私たちは他者の必要に気づいているのでしょうか。困っている人に対する感受性が愛の指標です。神への愛は困っている人にどれだけ気づくかで測られます。

今日の福音朗読においてパンの増加の奇跡からキリストが、群集の必要に関心があるのと同じく、わたしたちの日常の必要に関心を持っているとわかります。キリストに頼まなくても、キリストはわたしたちの必要を知っていて、沈黙の依頼に答えてくれます。5千人の空腹の人々はキリストに食べ物を頼んだわけではありません。しかし彼らの必要がわかっていました。キリストは彼らの必要が彼のそばにいたいから起きたことを知っていました。わたしたちもキリストに忠実なら、困った時キリストの憐れみと力が共にいてくれると信頼していいのです。

キリストが地上での私たちの日常生活に親しい関心を持っておられることを確信しなければなりません。キリストのこの関心がわたしたちの歩みからすべての翳りを取り去ると思わないでください。たくさんの聖人が地上で生きているとき、大きな困難と苦しみを味わいましたが、まさにこの苦しみが彼らへのキリストの贈り物だったのです。これらの贈り物と彼らが実行しなければならなかった忍耐、信仰、信頼の徳によって、彼らは今日神の選良となったのです。

キリストの愛が私たちを困っている人々へと向かわせます。何も物質的援助を与えることが出来ないかもしれません。しかし誠実に関心を示し、慰めと安らぎの言葉を与えることによって彼らの荷を軽くすることは出来ます。貧しい人が苦しんでいる仲間に与えるものは愛だけですが、キリストの息吹きがあればその効果は天にまで達します。

この奇跡から得ることの出来る他の使信は、持っているものをイエスに渡すならわたしたちの予想を越えて増加してくださるということです。福音の中の少年は五つのパンと二匹の魚という持っているものをすべてイエスのところに持ってきました。今日もイエスは同じように私たちに言いつづけています。「貧しい、困っている人々のところに出かけていく、あなたたちの寛大さ、能力、手と足が私には必要だ。」

(Beatrice)

## 主の変容

キリストは御受難の予告を三回なさいました。最初の予告の六日後高い山に登り、ご自分の栄光の姿をペトロ・ヤコブ・ヨハネの三人の弟子にだけお見せになりました。受難予告によって恐れと胸騒ぎを覚えた弟子たちの動揺を抑え、やがてくる復活に備えさせようとお考えになったのでしょう。三人の主要な弟子の前で主の姿が変わり、服はこの世のどんなさらし職人も出来ないほど白くなったとあります。これが主の本当の姿、栄光の姿です。

主の栄光がかなり多数の人間の目にあらわになるのは十字架・復活（そして昇天）の後のことです。復活の時栄光の姿で現れるはずの主をペトロたちは前もって見る恵みを与えられたのです。主の神性を垣間見たのです。十字架以前、地上ではこの時以外見ることが許されない神秘でした。

ところでヨハネ福音書では栄光が受難と結びついています。有名な一粒の麦の譬えを話す前に「人の子が栄光を受ける時が来た」と主は仰います(ヨハネ12:23)。十字架が即ち栄光なのです。地上での悲惨な姿がすでに栄光を現しているとされます。13:31では「いま人の子は栄光を受けた」と言います。ユダが出て行ったばかりのときです。イエスはまだ最後の晩餐の席上にいます。こういう言葉には深い意味があります。いわば栄光の先取りです。

世の中には現世利益を説く宗教がたくさんあります。今悩み・苦しみがあるなら、それは前世の因縁が悪いからであり、これから善行をつめば因縁が良くなり、生きているうちにご利益をもらうことが出来るなどと説きます。こういう教えにも良いところがあるのかもしれませんが、生きがいと与えられる人も少なくないでしょう。しかし私にはずいぶん浅い見方だと思えます。今の苦しみや悩みは何よりもまず、神の栄光が現れるためにあるのです。それは生まれつきの盲人について主が仰ったことです(ヨハネ9:3)。私たちが受けた傷の一つ一つがやがて宝石に変わることでしょう。そこが神との接点、光り輝く接点だからです。現在の苦しみは将来私たちに現されるはずの栄光に比べると取るに足りない(ローマ書8:18)のです。

主の変容が御父の前での真の姿、そしてやがてくる復活のときの姿を垣間見せるものであるなら、そして主が十字架へと決定的に進行する中ですでに栄光を受けたと言えるなら、わたしたちも悩みや苦しみの中にもだえながら、すでに神の栄光の中にあると言っていいはずですが。わたしたちには主が共におられるからです。そして信仰において主の栄光に与かり、聖霊の力によってすでにその一部を前もって味わう恵みも受けているのです。

(新井)

## 年間第19主日

「私は天から降って来たパンである。… 私を信じるものは永遠の命を持つ。」

(ヨハネ6：41～51)

ヨハネの福音書はこの世の生活が物事の目的でないことを明らかにしています。次に来る命(生活)があります。そしてこの命は終わることがありません。永遠に続く生命です。すべての生命は神の創造であり、神によって生かされています。神は私たちを生かすパンです。すべての地上の食物は朽ちますが、恩寵の生命は朽ちることがありません。私たちは幸いにも御聖体においてイエスを頂きます。ミサに与かるたびにわたしたちの中にキリストを受け、親しくキリストと一致し、またお互いにも一致しあうのです。キリストが下さるのはご自分の体と血です。霊的に養う食物です。

古代の中国皇帝に死をとて恐れる人がいました。ある日家来の魔術師が東方の海中にある蓬莱国で永遠の命の秘密が見つかったと奏上しました。皇帝は数隻の船に高価な贈り物を積み込ませ、この贈り物で秘密を買おうと考え、船団を派遣しました。彼らはその国を見つけたが、その国の人々は秘密をこのような贈り物と交換しようとしなかったそうです。

歴史の始めから人間が不死を夢見ていたことがわかります。人間は永遠の命を夢見ていたのです。私たちキリスト者にとって永遠の命の秘密が何であるか考えてみましょう。それはキリストとそのみことばを信じることです。イエスに従う者となるためにはすべての点においてキリストのようにならなければなりません。聖パウロが第二朗読で言っているように「神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。キリストが私たちを愛してくださったように愛によって歩みなさい。」聖パウロは、私たちが互いに親切に優しくし、隣人が傷つけることをしたとしても単に許すだけでなく、そういうことをした人を心から悲しみ、彼らに受け入れられていると感じさせるほどの愛を示すようにと言いたいのです。

イエスは命のパンです。これはイエスが命に本質的であり、イエスの命令を拒めば命を受け損ね死んでしまうということです。一方イエスが差し出すものを受け止めれば、この世に真の命を見出し、来世では栄光を受けます。キリスト教信仰を与えてくださったことを心から神に感謝しなければなりません。この信仰とは、神が溢れる愛から私たちに友として語りかけ、私たちが永遠の命を得るようにわたしたちの間に住まわれたことです。イエスにしっかりと結びついている人は死を味わいません。

ある日、外国人の旅行者がヒンズー教の修行者の住まいをわざわざ訪ねました。彼の家に入ると、テーブル、ベンチ、少しの本棚以外何もないのに驚き、「家具はどこに置いてあるのですか」と尋ねました。「あなたの家具はどこにあるのですか」と修行者は答えました。「家具ですって。私は旅行中なんですよ。」と言うと、修行者は「私もそうです。」と言いました。

地上にいる間は旅をしているのです。この世では通りすぎる旅人であり、だから目的地に着けるように用意が出来ていなければなりません。その目的地ではイエスと共に天にいて、永遠の命を頂くのです。

(Beatrice)

年間第20主日

## 「人の子の肉を食べ、その血を飲まなければあなたたちの内に命はない」

(ヨハネ 6 : 53)

今日の福音の箇所はイエスが5千人にパンを増加させて与えた後、追って来た群衆との対話の一部です。イエスはパンを食べて満腹するより、天から下ってきた命のパンである自分を信じるように語りますが、ユダヤ人たちはイエスの父も母も知っているのになぜ天から下ってきたと言うのかと批判します。これに対して、イエスは自分が与えるパンとは自分の肉のことであると言います。天から下ってきたパンであるイエスを食べるものには永遠の命がある、またイエスの肉を食べ、血を飲まなければ永遠の命はないと語ります。この言葉に躓いたものは少なくなく、弟子たちの中からさえ多くの者が立ち去りました。

ここにはイエスの絶対性の主張があります。今でもこれに引っかかりを感じる人は、キリスト教に惹かれるが入りたいと思うに至っていない人の中かなりいると思います。プロテスタントで洗礼を受けた私が、プロテスタント教会を離れ仏教に迷い込んだのも、キリストを信じないものは救われないという絶対性の主張に躓いたのが理由の一つでした。

インドで日本人が建てたお寺に居候していたとき、本棚にあった本の中で第2ヴァチカン公会議のキリスト教以外の諸宗教に対する教会の態度についての宣言の2条が引用されているのを読み、感動したのを覚えています。そこには「教会は、これらの諸宗教の中に見出される真実で尊いものを何も排斥しない。これらの諸宗教の行動と生活様式、戒律と教義を、まじめな尊敬の念を持って考察する。それらは、教会が保持し、提示するものとは多くの点で異なっているが、すべての人を照らす真理の光線を示すこともまれではない。」とありました。現代世界憲章の22条では、「キリストはすべての人のために死んだのであり、人間の究極的召名は実際にはただ一つ、すなわち神的なものである。したがって、我々は神だけが知っている方法によって、聖霊が復活秘義に与かる可能性をすべての人に提供すると信じなければならぬ。」と諸宗教が真理の光線を持つ理由を書いています。また教会憲章の16条には、「本人の側に落ち度のないままに、キリストの福音ならびにその教会を知らないが、誠実な心を持って神を捜し求め、また良心の命令を通して認められる神の意志を、恩恵の働きのもとに行動によって実践しようと努めている人々は、永遠の救いに達することができる。」という深いことが述べられています。

お寺にはコピー機がなかったのでノートにこれらの文章を書き写したものです。私に洗礼を授けた牧師が、カトリックは第2ヴァチカン公会議で大転換を遂げ最も進歩的な教会になってしまった、いったいどうなっているのだろうと言っていたのを思い出しました。こういう排他性のない寛容な教会でなら私も生きていけそうだと感じましたが、当時は仏教の世界に入り始めたばかりだったので、納得するまで仏教を味わってみたいと思い、遮二無二進んでいったのでした。

(新井)

## 年間第21主日

「主よ誰のところに行きましょう。あなたは永遠の命の言葉をもっておられます。」

(ヨハネ6：60～69)

シモン・ペトロがキリストの「あなた方も離れていきたいか」との問いかけに対して「主よ誰のところに行きましょう。あなたは永遠の命の言葉をもっておられます。」と答えたとき、当時の使徒の仲間に代わって言うだけでなく、キリストが受肉した神の子であると本当に信じる私たちすべてのキリスト者に代わって言ったのです。ペテロはキリストの神性を完全に確信する前に信仰の行いをしましたが、キリストが神に近い方であり、真理しか仰らないとすでに確信していたのです。

イエスは「私の言葉は霊であり、命である」と仰います。彼のみ、命とは何か、霊に従って歩むとは何かを教えることが出来ます。人生はその目的と目標から価値を得ます。キリストだけが人生の真の価値と、その価値を内と外からやって来る絶えざる反対に負けずに遂行する力を与えることが出来ます。イエスは、彼の与えるものを単に拒否するだけでなく、敵意を持って拒否するものもいるだろうと十分に気づいていました。神の霊に動かされなければ誰もイエスを受け入れることは出来ないのですが、世の終わりまで人は霊に逆らうことができます。そのような人は神ではなく、自分自身によって締め出されます。

ペトロの忠実さはイエス・キリストとの人格的關係に基づいています。彼には理解できないことがたくさんあり、他の人のように当惑していたのです。しかしイエスには喜んで死んでもいいと感じさせる何かがあったのです。キリスト教は哲学や理論ではありません。イエス・キリストに対する人格的応答なのです。

私たちにはペトロと使徒たちが後に得ることになるキリストの神性の証明があります。私たちには2千年にわたるキリスト者の信仰もあります。その信仰の中心にいけにえと秘跡としてのキリストの聖体があります。信仰を守るために喜んで命を差し出した多くの殉教者の尊い模範もあります。わたしたちの信仰はそのような極端な試練にさらされることはないでしょう。しかしもしそうなったら神が私たちに殉教する資格がないとされませんように。

わたしたちの中に、神の贈り物を十分に効果的に用いているかについて自分を吟味すべき人が多いかもしれません。ミサに出席するたびに、キリストが世の聖化のためにご自分を御父に捧げているのがわかっているのでしょうか。祭壇でのキリストの働きを通して私たちが限りない感謝を捧げているとわかっているのでしょうか。神の子が自分のために何をしてくれ、今も何をしてきているかを悟り、認識している真のキリスト者なら、自分の神に対する相応しくなさをより小さくしようといつも努めるでしょう。なぜならどんな聖人も神の愛の行いに与かるのに相応しくないからです。

一生の中では信仰が試みられるときもあるでしょう。イエスから離れ、もう一緒に歩きたくないと思う誘惑さえあるかもしれません。こういう時が来れば問題をじっと見つめないようにしましょう。眼をイエスのペルソナに向けましょう。キリスト教は受け入れるべき真理でなく、イエスのペルソナだからです。イエスは神の尊い方です。彼を置いて他に行くべき人はありません。ペトロが実行し、「主よ、誰のところに行きましょう。あなたは永遠の命を持っておられます。」と言う信仰を持ったように、わたしたちのイエスに対する信仰を再確認しましょう。

(Beatrice)

## 聖霊に導かれて

(ローマ8・14)

神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。

この言葉は、キリスト者として生きることの素晴らしさ、新しさ、自由、すなわち、洗礼とイエスへの信仰によって私たちに与えられる実りをたたえて、聖パウロが語っている箇所の中心です。私たちは洗礼と信仰を通して、イエスに深く結ばれ、イエスを通して、三位一体のいのちにあずかります。私たちは、キリストと一体になることにより、聖霊を受け、聖霊のすべての実りをいただきますが、その第一の実りは、何よりも私たちが神の子となることです。

「私たちは神の子と“された”」(\*1)と聖パウロが語っているように、神の御一人子と比べると、確かに私たちは「養子」のような存在です。

しかし、御父と私たちとの交わりは、養子という法律上の関係に終わるものではなく、私たちの存在そのものにかかわることです。私たちは新たないのちを受けて、自分のすべてが変えられました。私たちの生活全体が、一つの新しい基準、すなわち「神の霊」という新しい霊によって、導かれるようになったからです。

このように、洗礼の恵みによってもたらされた「死と復活の奇跡」を、私たちがパウロと共に、終わりなくたたえることができるでしょう。

神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。

今月のみ言葉は、キリスト者としての私たちの生活と関係があります。聖パウロの言葉を借りれば、聖霊は、私たちの生活に、「肉と霊の戦い」をもたらされました。この「肉」というのは、肉体と魂の両方で成っている「人間」を指していますが、そこには、人が本来持っている弱さやエゴも含まれます。このような私たちの弱さやエゴは、いつも「愛の掟」と戦っており、「私たちの心に注がれた神様の愛そのもの」(\*2)と戦っている状態にあります。

聖霊に導かれて生きる人は、日々「信仰の戦いを戦い抜く」(\*3)よう招かれています。悪に対するすべての傾きに打ち勝ち、洗礼の時に宣言した信仰に従って

生きるためです。

しかし、そのためには、どうすればいいのでしょうか。

聖霊に働いていただくためには、私たちの側の協力が必要です。聖パウロが今月のみ言葉を記しながら、何よりも念頭に置いていたのは「キリスト者としての務め」すなわち「自分自身を捨てること、さまざまな形で表に出てくる自分のエゴと戦うこと」でした。

しかし、このように自分自身に死ぬことによって、いのちが生まれます。自分を捨てる時、自分のエゴに対して「いいえ」と断ち切る時、そこからは、泉のように、新しい光、平和、喜び、愛、内面の自由が生み出されるのです。こうして私たちは聖霊に向かって、心の扉を開くことになります。

私たちが、心の中の聖霊にもっと自由に働いていただくなら、聖霊は、ご自分の賜物をより豊かに私たちに与え、人生の歩みの中で、私たちを導いてくださるでしょう。

**神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。**

では、今月のみ言葉をどのように生きることができるでしょうか。

何よりもまず、私たちの中に聖霊がおられることを、もっと意識しましょう。このような計り知れない宝物をいただいているにもかかわらず、私たちはその価値をよく理解していないからです。素晴らしい富を持っているのに、使わずに放っているのです。

聖霊の声を聞き取り、それに従って生きるため、私たちは、神様の御心に反するすべてのことを「いいえ」と断ち切る必要があります。誘惑が来るなら、そのささやきに耳を傾けず、受けつけないことです。一方、神様が私たちにお任せになる働きに対しては「はい」、と答え、出会う試練や困難にも「はい」と言って、受け入れましょう。

私たちがこのように、真のキリスト者として生きるなら、私たちの生活は聖霊に導かれたもの、深い意味を持ち、力強く、光にあふれるものとなるでしょう。

こうして、私たちは肉親の親を持つだけでなく、神様を父としていただき、その子供として生きていることを、周りの人たちも感じるようになるでしょう。

キアラ・ルービック



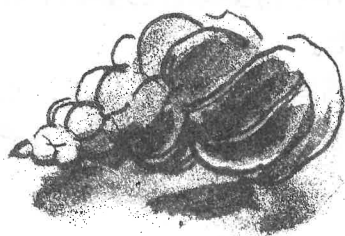
- \*1 ローマ8・15  
ガラテヤ4・5参照
- \*2 ローマ5・5参照
- \*3 テモテー 6・12参照

フォコラーレ本部

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL. 03-5370-6424

FAX. 03-5370-3055



# フォコラーレ・NEW GENERATION NETWORK

## 「世界100人の青少年との集い」

6月に入り、夏の訪れを感じる今日この頃ですが、皆様お元気でいらっしゃいますか。今回は、7月末に予定されている一つの集いについてご案内したく、お便りをさしあげています。

フォコラーレは世界182ヶ国に広がり、子供から大人まで、様々な世代の人たちが、一致の精神を生きていますが、この夏、世界30数ヶ国から100人以上のフォコラーレの青少年が日本を訪れることになりました。

来日のきっかけは、子供のために支援活動を行っている「ありがとう基金」の主催で、7月に千葉で開催される「子ども未来会議」に、海外からの参加者として、これらの青少年が招待されたことです。数日間会議に参加した後、彼らは東京に戻り、私たちと共に過ごすひとときを持つことになりました。世界各地で一致の精神を生きる青少年100人と出会う、というこの貴重な機会を、皆様と共に持つことができると心から望んでいます。当日は、各国の青少年たちによる経験談、歌や踊りが発表されるほか、日本の青少年によるプログラム、海外と日本の青少年が交流する時間も予定されています。

毎年この時期には、富士吉田市で「マリアポリ」の集いが開かれてきましたが、今年は、この「世界の青少年との集い」開催のため、マリアポリは行われないことになりました。

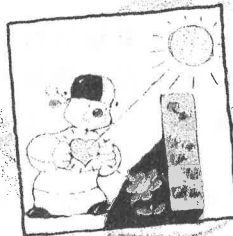
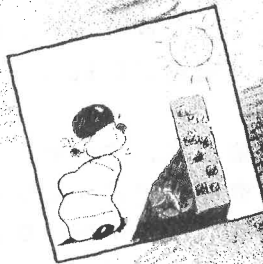
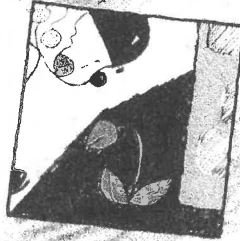
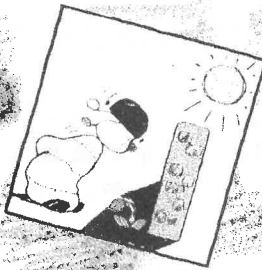
中高生をはじめとする若者や、大人の方々、どなたでもご参加いただけますので、ご家族、ご友人をお誘いのうえ、どうぞいらしてください。心からお待ちしています。

フォコラーレ

- ・ **日時**：2000年7月30日（日）  
午後1：30受付 2：00～5：00プログラム
- ・ **場所**：白百合女子大学ホール（調布市緑ヶ丘1-25）案内のハガキ参照
- ・ **参加費**：無料（ただし、この集いの諸費用に充てさせていただくため、献金という形でご協力をお願いできますと幸いです）
- ・ **連絡先**：フォコラーレ Tel 03-3332-8460 03-3247-9122  
03-3399-5508 03-5370-6424

# NEW GENERATION NETWORK

## 世界の100人の青少年との集い



日時 2000年7月30日(日)  
 午後 2:00-5:00 (受付1:30)  
 場所 白百合女子大学ホール  
 (調布市緑ヶ丘1-25)

「一致をめざす青少年少女たち」が  
 30数カ国からやってきます。  
 みんなが望んでいるのは、  
 世界が一つの家族になること。

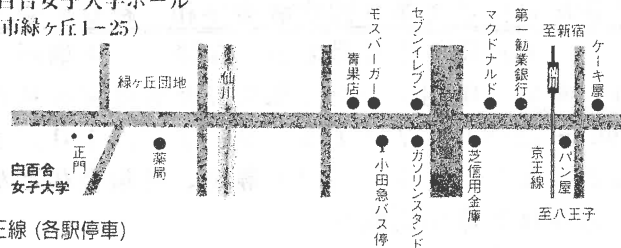
世界中に友達をつくって、  
 みんなが一つになれることを  
 体験してみませんか？

フォコラーレ

## NEW GENERATION NETWORK

### 世界の100人の青少年との集い

◎白百合女子大学ホール  
 (調布市緑ヶ丘1-25)



●京王線 (各駅停車)

新宿より25分、仙川駅下車、徒歩10分。

地下鉄都営新宿線で笹塚駅乗換、仙川駅下車。

●小田急バス

JR吉祥寺駅(南口、バス停7番)より20分。 終点仙川にて下車、徒歩7分。

小田急線成城学園前(北口、バス停3番)より15分。仙川駅入口下車、徒歩15分。

## 諸所の企画についてのご紹介

### I. ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会)

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247

\*いのちの泉へ 大聖年にあたって新しく歩む祈りの道

2000年 7/8. (土) 洗礼の恵みを深める

10/21. (土) 様々な祈り

11/18. (土) 祈りの難しさ

12/16. (土) 聖性への招き

2001年 1/20. (土) 信仰による神との一致

2/17. (土) 感謝(ユカリスチア)の祈り

3/17. (土) 復活への道

講師：伊従 信子(ノートルダム・ド・ヴィ 会員)

プログラム：午後2時～午後5時半。講話、祈り、お茶&質問の時間。ミサ(日曜

日のミサ)申し込み：電話(18:00-21:30)・Fax(03)3594-2254。参加費：200円

スズランハウス

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。：詳細を知りたい方は、下記へ

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222 井口 貴志

### III. 風の家

指 導：井上 洋治 師(東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

\*新住所 〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

### IV. 生命山カトリック別院

〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

黙想会 指導：フランコ神父・園田善昭神父

(1)8月7日(月)～8月15日(火) (2)8月17日(木)～8月25日(金)

開始 17:00時 終了 朝食後

諸宗教対話活動 仏教者との交流・6月25日(日)

21世紀に向けて第4回宗教者平和の祈りの集会

\*日時：10月8日 午後 \*場所 生命山カトリック別院

祈りの集い 年間テーマ「私を見た者は父を見たのである」

(10:00～15:00) 7/13. 9/14. 10/12. 11/9. 12/14 (木)

\*このほか、個人、グループでも静修、黙想会などができます。

お申し込みは生命山別院へ

### V. 瞑想の家 東光庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師(神言会) \*詳細問い合わせは電話で

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

VI. リーゼンフーバー神父による研究会 (1999~2000年)

①キリスト教入門講座

- 日 時：金曜日 18:45 ~20:30  
場 所：聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
対 象：キリスト教を学び、信仰を自分自身の問題として考えたい方  
どなたでも。予備知識は必要ありません。
- 6/30 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える  
7/7 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に  
7/14 イエスは誰か—イエスの自己理解  
7/21 最後の晩餐—自分を与えるイエス  
7/28 イエスの受難—その事実と背景  
7/29 ミサ (14時、上智大学内クルトゥールハイム2階)  
8/11 イエスの死—その救済的意味  
8/25 イエスの復活—今に生きるイエス

- ②神学読書会 日 時：毎月第2・第4 (第5)水曜日 18:30~20:30  
場 所：SJハウス第5会議室 要申込み、定期的参加  
対 象：キリスト教の基本的知識を持っている20代~30代の方。

- ③聖書研究会\* 日 時：毎月第1・第3水曜日 18:30 ~20:00  
場 所：S. J. ハウス第5会議室  
内 容：日曜日の聖書箇所を読んで一緒に考える。どなたでも。  
\*日 時：木曜日 12:40 ~13:25  
場 所：上智大学7号館 316号研究室  
内 容：新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。

- ④坐禅会 日 時：月曜日 17:20~20:10 木曜日 18:00~20:30  
場 所：クルトゥールハイム1階左の部屋 3回坐り、間に講話があり。  
どなたでも。遅刻、不定期参加も可。

- 関東 8/12 (土) 20:30 ~19 (土) 16:00 秋川神瞑窟 一泊2400円程度  
10/31 (火) 夜 ~11/5 (日) 16:00  
2000.1.2/17 (土) 8:30~ 18 (日) 16:00 上石神井 5.400  
8/1 (火) 17:30 ~7 (月) 13:00 宝塚市②

連絡先：①シスター朝山 TEL. 0727-59-3742 ②岸本 正 TEL 078-583-3067

- ⑤ミサ：水曜日 17:10~18:00 場所：上智大学内クルトゥムハイム1階右小聖堂

- ⑥黙想：毎月第2. 第4火曜日18時45分~20時  
水曜日 18:00~18:30 場所：上同じ (ミサ、黙想、(8月. 11/1 月を除く))

- ⑦祈りの集い：下記土曜日 13:30~16:00 場 所：S. J. ハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。

7/8. 8/12. 9/9. 10/21. 11/18 12/9. 2001. 1/13. 2/24. 3/10

- ⑧黙想会：8/25. (金) 夜~9/1 (金) 14時・ 9/15 (金) ~9/17 (金)

- ⑨アガペ会：説明会と集い・下記の日 13時30~ .1/22. (20代~40代の信者)  
10/4 (土) 2001. 1/20 (土)

以上、問い合わせ・連絡先：クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス

直通電話 03-3238-5124、5111(伝言)、FAX, 03-3238-5056

VII 三位一体の聖体宣教女会東京修道院

場 所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5 TEL. 042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会「聖書で祈る」

申し込み先…… 佐々木明子

指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）

対象：一般信徒

2000, 10月28日（土） 5:30PM ~ 10月29日 4:00PM

2001, 2月24日（土） 5:30PM ~ 2月25日 4:00PM

召命を考える祈りの集い

指導：星野正道師（カルメル会）

対象：女子青年信徒

2000, 7月20日（木） 10:00AM ~ 5:00PM

10月 8日（日） 5:30P.M ~ 9日（月） 4:00P.M （一泊になりました）

2001, 2月11日（日） 5:30P.M ~ 12日（月） 4:00P.M （ “ ” ）

黙想会

指導：星野正道師（カルメル会）

2000, 11月29日（水） 10:00A.M. ~ 4:00P.M \*対象：一般信徒一日黙想

大聖年・聖書に親しむ集い

講師：シスターマグダレナ

\*対象：信徒

テーマ：2000年に向けて 御父、御子、聖霊との交わり

一秘跡を通して一 毎月最終木曜日 2:00P.M. - 3:30P.M. \*7.8.9.12月除いて

キリスト教講座（カトリックの教えを学びたい方）毎木曜日 10:00A.M. ~ 11:30A.M.

十字架の使徒職の集い

\*対象：信徒

期 日：第一グループ 毎月第2金曜日(2:00P.M. ~ 3:30P.M.)

第二グループ 毎月第1木曜日(2:00P.M. ~ 3:30P.M.)

両グループ\*司祭のために聖体礼拝を捧げます(1:30PM~200PM)

VIII マリアの御心会（明泉会）

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2

TLE. 03-3351-0297

I. 黙想会 担当：シスター今村和子

① 聖書深読黙想会 - 主日の福音を中心に -

隔月・日曜日 10:00A.M ~ 5:00P.M.

② 黙想と祈りの集い

テゼの歌をうたいながら

③ 霊操による祈りの集い

指導：長町 裕司師（イエズス会）

毎月第3土曜日 6:00~8:00P.M

II. ① 聖書会 …詩編を読む…

毎月第1月曜日 10:00 ~ 12:00. A.M

② 聖書通読講座

木曜日 6:30~8:30P.M

## IX 聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax. 0559-92-2120

祈りの集い（問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで！）

- 午後のひととき、静かに過ごしてみませんか？

（当日黙想の家の玄関に表示します。）

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは：165-0033東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体 TEL.03-3337-3291

## X. 「内観研究会」代表：藤原直達「心のいほり、内観瞑想センター」福島教会内

〒553-0006 大阪市福島区吉野4-24-15

\*予約相談は、FAX 06.4804.5361. 携帯 090.2401.9374 \*予約が決まれば、さらに詳しく場所、申し込み、諸注意、など送ります。費用全部で5万円

予定表	2000,	7/10 ~7/15	戸塚・聖母園	7/24 ~7/29	関西会場A
		8/7 ~8/12	戸塚・聖母園	8/22 ~8/26	関西会場A
		9/11 ~9/16	茅ヶ崎	9/22 ~9/28	沖繩
		10/1 ~10/7	京都、精華町	10/16 ~10/22	茅ヶ崎聖クララ
		11/13 ~11/18	茅ヶ崎	11/26 ~12/2	宝塚
		12/11 ~12/16	茅ヶ崎		

## I. コングレガシオン・ド・ノートルダム 〒182 東京都調布市下石原3-55

黙想会：神の呼掛けに耳を傾けてみませんか。 ☎(0424-82-2012)

テーマ：修道召命を考える FAX(0424-82-2163)

日 時：7/1（土）（受付20:00）～ 7/2（日）16:00 まで

対 象：20代～30代 未婚女性信徒

指 導：マヌエル・ディアス神父様（イエズス会）

場 所：調布修道院

参加費：2,000 円（宿泊費、食事、等）

申込み：6/27（火）までに

### 修道召命の黙想会

テーマ：修道召命を考える

指 導：西本裕二神父様（サレジオ会）

日 時：9/30（土）16:00 ～ 10/1（日）16:00

対 象：20代～30代未婚の女性信徒

参加費：2,000 円（宿泊費、食事、等）

持参品：聖書、筆記用具、洗面道具

申込み、問い合わせは9月25日（月） S r. 秋山

場 所：〒182-0034 東京都調布市下石原3-55 TEL(0424-82-2012)

コングレガシオン・ド・ノートルダム FAX(0424-82-2163)

京王線調布駅南口より徒歩15分～20分 . タクシーで5分

## 新刊紹介

鶴岡賀雄著

# 「十字架のヨハネ研究」

創文社 2000年2月29日刊

一冊の有り難い本を紹介、推薦させていただきます。とくに、カルメル会と、東京上野毛教会の皆様。というのも、もう十年ほど前のこと約四年近くにわたって、毎月一回、十字架の聖ヨハネの四大著作、「カルメル山登攀」、「暗夜」、「霊の賛歌」、「生ける愛の炎」を、ご一緒に完読したことを覚えておられるでしょうか。ほとんどが、ご婦人方でしたが、その中の黒一点、十字架の聖ヨハネのように、慎ましやかに皆様にまじって、いつも意味深い感想を聞かせてくださった方、その方が鶴岡先生でした。その後が始まった、「道元研究」にも今日まで熱心に参加してくださっています。昨年まで新宿の工学院大学教授でしたが、現在、母校東大助教授として活躍しておられます。

ご高著を「有り難い本」というのは、文字通り「有ることの難しい希少価値」ということ。二つの理由があります。

ひとつは、今まで、日本では、十字架の聖ヨハネについて、いくつかの訳書、著書が出版されましたが、本書のように、きわめて正確な学術的知識に裏づけられた透明な論理にそって書かれたものは皆無です。西暦二千年の大聖年にあたって、神からの尊い贈りものといえましょう。

もうひとつは、未信者の学者が信仰の頂点に立つ聖者ヨハネの著書を紹介解説をされたのですからこれも、幅広い神の大きなお恵みということでしょう。

「わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊を導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ一つの群れになる」(ヨハネXV、16)カルメル会は、学者づくりの修道会では有りませんが、母聖テレジアは、信仰の確かな知識を支えてくれる学者を、とても大切にしていました。その意味でも、著者鶴岡先生は、カルメルのよき友、イエスの福音を伝えてくださる良き師であるといえましょう。

創文社は、カトリックの神秘主義に関する西欧古典を紹介してきた貴重な出版社です。皆特殊の書物だけに値段が高くならざるをえませんが中味はそれだけの値打ちがあります。友人におすすめてください。

奥村 一郎



『カルメル』のご案内

季刊誌「カルメル」（今日の靈性）は、年間5回、春（3月）・夏（6月）  
・特集〔四旬節講話〕（6月）・秋（9月）・冬（12月）に発行されます。  
2000年夏号・特集号の内容と執筆者のご案内をさせていただきます。

《夏号》

聖体＝キリストの過越の神秘(45)＝高橋重幸師（トラピスト会）  
愛する者も友を避けて立つー詩篇38＝雨宮慧師（真生会館聖書センター）  
「テサロニケの信徒への手紙二」に学ぶ(終)＝石川康輔師（サレジオ会）  
何故、あなたを愛するか、おゝマリア！（10）＝ペロ・アロジオ師（カルメル会）  
謙遜（二）＝Sr.伊従信子（ノートルダム・ドゥ・ヴィ会、上智大学教授）  
「存在への響き・聴く」＝中川博道師（カルメル会）  
「わたしは生きたい」＝森みさ氏（外国映画の日本語版翻訳者）  
カルメル山の聖母・聖エリア＝Sr.伊従信子（ノートルダム・ドゥ・ヴィ会、上智大学教授）  
福音の小さい兄弟会の靈性＝太田勝師（福音の小さい兄弟会）  
ザビエルの信仰ー神への信賴(3)＝小平卓保師（鹿児島純心女子短大教授）

《特集号》 ー生ける神三位一体ー

教会の源泉と展望ー教会の歴史に於ける大聖年の意義＝森一弘司教（東京教区）  
愛に生きる神に生かされる存在＝カルメロ・ストウッキ師（カルメル会）  
三位一体への祈り＝ペトロ・アロジオ師（カルメル会）  
三位一体と日常生活＝中川博道師（カルメル会）  
私達と共におられる神ー対話・相互愛・一致＝小林久美子氏（フコケレ）

皆様のご購読をお待ちしております。

年会費

3000円（送料共）

（上野毛教会、在俗者会集会で受取り希望の方は、2100円）

購読御希望の方は、下記①②いずれかの方法でお申込み下さい。

- ① 電・FAX(03-5706-8356)で、カルメル誌事務局（竹田）に。
- ② 郵便振替で、00190-4-195457 跣足カルメル修道会の口座  
に住所、氏名、電話番号、新規購読と明記の上、ご送金下さい。

カルメル誌事務局長

新井延和 神父

今日よりはひとしお心こめて

繰るロザリオの玉無我の境にて

マリア安達留子遺稿集

萩の歌より



上野毛、宇治、大分

カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

聖テレジア修道院 (黙想) は、カルメルの霊性を体験し深めたい方のためのものです。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

☎ : 03-5706-7355

FAX: 03-3704-1764

東急大井町線 : 「<sup>かみのけ</sup>上野毛駅」下車徒歩7分

※☎611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX: 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線 : 「<sup>みくじょう</sup>六地藏駅」下車徒歩15分

京阪バス : 六地藏の町並バス停より御蔵山<sup>おくらやま</sup>行きに乗り

「西住宅バス停」下車徒歩5分

※☎870-1152

大分市上宗方1800-3

☎・FAX共 : 0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って<sup>あきあし</sup>明礮橋を右折

男子跣足カルメル修道会

## お 願 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨  
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画  
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて  
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

- 
- ・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 中尾豊子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

中尾 豊子 〒224-0041 神奈川県横浜市都筑区仲町台 3-15-5

☎045-941-3566

## あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きてくださいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道